

平成 30 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成 30 年 12 月
海老名市立 今泉小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に興味がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

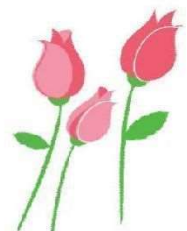
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 文の中における主語と述語の関係などに注意して書く問題ではつながりを考えて正しく書き直すことができます。
- 目的地までの道のりを説明するような問題など、話す・聞くに関する問題の正答率が高いです。

《努力を要する所》

- 全体的に問いに関する正答率が高いが、適切な敬語についての問いなどの無解答率がやや高いです。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 話し合いの場面で、話し手の意見をふまえた上で自分の意見を持ち、自分の考えをまとめることができます。
- 全体的に全国平均を上回っており、特に選択式の問題は正答率が高い傾向にあります。選択肢の中から答えを選ぶ回答の仕方に慣れていると言えます。

《努力を要する所》

- 推薦する事物のよさを捉え、適切な内容を取り上げて推薦文を書く設問では、条件を満たして書き上げることができた児童の割合が全国平均よりやや低いです。情報を適切に選択し、目的に合わせて整理して書く力に課題があると考えられます。

これまでの取組から

- 漢字の読み書きについては、学校だけでなく家庭学習等でも練習するようにし、学年の積み重ねを重視してきました。
- 学級での話し合い活動などを通して、自分の意見を述べる機会を積極的に取り入れました。

今後の具体的な取組について

- 漢字や敬語の使い方などは日常生活で活用させ、定着させていきたいです。
- 文章全体の内容や構成を考えて、事例を挙げて詳しく書く活動を行っていきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 約9割の児童が、面積がそろっている場合の混み具合の比べ方や2直角が 180° であることを理解できています。
- 示された事柄に当てはまる折れ線グラフを選ぶ問題では、グラフを、全体の変化と部分の変化の特徴の両方に着目して読み取れている児童が、7割近くいました。これは、全国平均、県平均を上回っています。

《努力を要する所》

- 1にあたる大きさを求める問題では、除数が1より小さくても、除法を用いることを理解していない児童が1/4いました。
- 混み具合を比べる問題では、 1 m^2 当たりの人数で比べる式と、1人当たりの広さで比べる式の意味の違いを理解できない児童が半数近くいました。
- 百分率を求める問題では、基準量と比較量を正しくとらえることができないため、 $\text{基準量} \div \text{比較量}$ と立式している児童が1/4以上いました。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 問題で示された考え方の例に沿って、出題された課題に多くの児童が正しく答えることができます。
- 一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから、正しい情報を読み取り、文章にまとめることができます。

《努力を要する所》

- 正答のために必要な情報を選び、順序立てて論述することを苦手としている児童が多くいます。特に、九九表の数字の並び方についての問題では、言葉と数を用いて正答の条件を満たす記述ができた児童が、全国や県の平均と比べて少なかったです。
- 全10問のうち、9問で無解答率が全国平均より高いです。最後まで粘り強く取り組もうとする態度に課題があると考えられます。



これまでの取組から

- 絵図によるイメージや実際の操作を伴った指導が、基礎的な概念の定着に結びついていると考えられます。
- 課題に対する友達の考えや教科書の例に示された解決方法に沿って、学習内容の習得に努めてきました。

今後の具体的な取組について

- 演算決定の際には、問題場面を図や数直線などに表し数量関係を捉えて立式したり、計算の意味を確認したりする活動を繰り返し行っていきます。
- 学習に向かう意欲を高め、一つの課題に対しても多様な考え方や算数的な表現方法に数多く触れさせるため、指導の在り方を考えていきます。

理科に関する調査結果

《優れている所》

- 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解することができています。
- 鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから考察する際に、どのような視点でまとめた内容なのか、分析することができます。
- 流れる水の働きによる水の浸食について、予想を基に、斜面に水を流したときの棒の様子を見通して答えることができました。
- 上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について考察できます。
- 回路を流れる電流の流れ方や、予想を基にした検流計の針の向きや目盛、電流の大きさについて実験結果より、答えを選ぶことができました。
- 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の位置の変化に合わせて、箱の中にある光電池の適切な位置や向きを選ぶことができました。
- 食塩を水に溶かしたときの全体の重さは、変わらないと選択肢から選ぶことができました。

《努力を要する所》

- 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わるということを実際の回路に適用することができない児童が多くいました。
- 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して筋道を立てて結論を書くことができない児童が多くいました。
- 問題に対してより妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、記述する力に課題があると考えます。記述問題は全体的に苦手なようです。

これまでの取組から

- 身近なものや生活に関係するものを実験に多く取り入れ、興味・関心を持てるようにしました。
- 実験や観察の様子をノートにまとめる活動を通して、学習したことを自分の言葉で表すことができるようになってきています。

今後の具体的な取組について

- 実験・観察や学習したことが、発展・応用につながるよう基礎の定着を図り、じっくり考えながら課題に取り組む時間を確保します。
- 記述形式の問題を苦手としているので、様々な形式の問題に触れる中で記述形式を意識的に取り入れるようにしていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 宿題に取り組んでいる児童が多いです。（「している」が、本校91%、全国87.9%）
- 算数の問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないか考える児童の割合が、全国平均と県平均を上回りました。（「当てはまる」が本校48.4%、県44.8%、全国44.2%）

《課題と思われる所》

- 算数や理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかと考える児童の割合がやや低いです。（算数18%、理科23%）

生活について

《よかった所》

- 毎日の就寝時刻、起床時刻がほぼ決まっている児童が多いです。（就寝時刻が、本校79.5%、全国77.0%、起床時刻が本校90.2%、全国87.8%）
- テレビのニュースやインターネットのニュース（携帯やスマホで視聴も含む）を見ている児童が多いです。（本校88.5%、全国86.2%）

《課題と思われる所》

- 自分には、良いところがあると思うと答える児童の割合が高くないです。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が、本校74.6%、全国84.0%）

これまでの取組から

- 家庭学習や宿題にかかる時間や内容に関して、学校統一基準を設け、職員間で共通理解を図ったうえで、児童に働きかけてきました。
- 「早寝、早起き、朝ごはん」が習慣になるよう、家庭と学校が協力して児童に働きかけてきました。

今後の具体的な取組について

- 授業で学んだ知識が、実生活でどのように役立っているのかを振り返る時間を充実させていきます。
- 自分や友達の良さに気づき、児童の自己肯定感が高まるような授業づくり、学級づくりをしていきます。



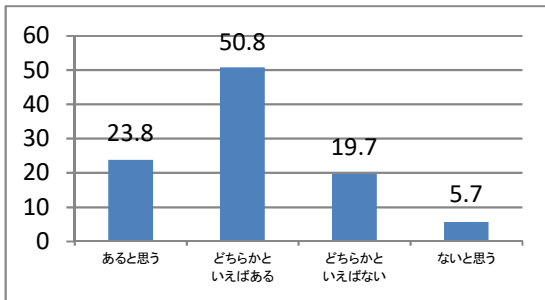
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 子どもの良さを認め、褒めましょう

褒められることで自己肯定感が高まり、自分に自信がもて、積極性が培われます。

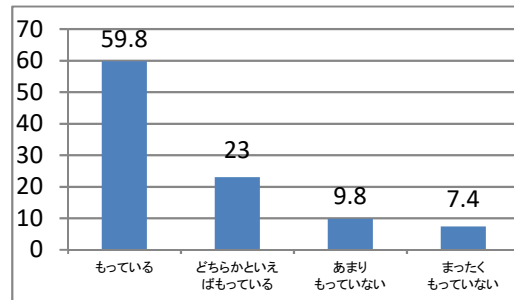
自分には、よいところがあると思いますか。



2 お子さんと夢や目標について語り合いましょう

夢や目標を明確に設定することで、生活を改善する力や学ぶ力が高まります。

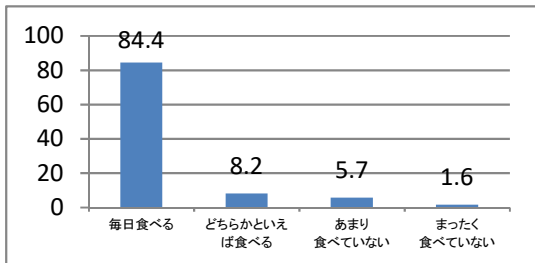
将来の夢や目標をもっていますか。



3 朝ごはんを毎日食べて、元気に過ごしましょう

毎日、朝ごはんを食べることで活動や学習のための体の準備ができます。これからも継続しましょう。

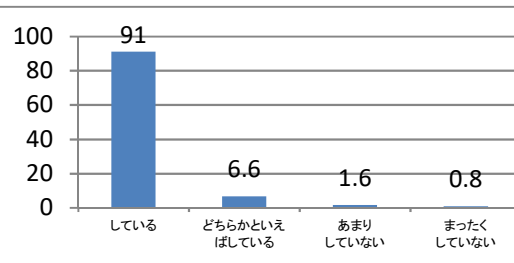
朝食を毎日食べていますか。



4 家庭学習の習慣を身につけましょう

家庭学習は毎日続けることで習慣化されます。お子さんにあった学習時間を設定していきましょう。

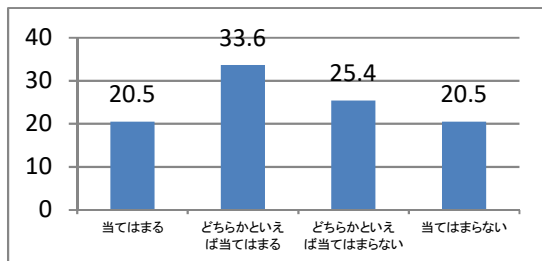
家で学校の宿題をしていますか。



5 家族みんなで地域の行事に参加しましょう

子どもは地域社会の中で様々な経験をして成長していきます。

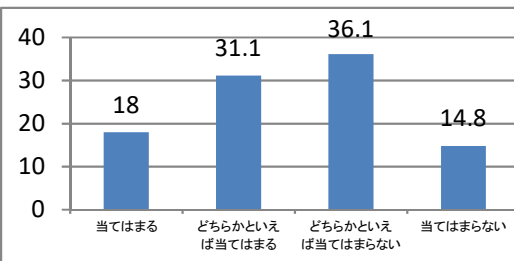
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



6 日常生活の中で、学習したことを使っていきます

学んだことを実際に使う経験を積み重ねることで子どもたちの知識は生きて働く力となります。

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。





平成 30 年 12 月